

平成28年度(2016年)「第2回河川AP会議」の振り返り
(論点整理)

1 ルシャ川第1ダム下流の落差解消策について

- ① 応急対策については、来年以降(H29)の遡上調査が評価の情報になる。

2 ルシャ川のシミュレーションについて

- ① 河川の自由度を増し、産卵環境を広げるためにも人工堤防は撤去した方が良い。
② 人工堤防の撤去については、関係機関が協力して解決の糸口を探って頂きたい。
③ シミュレーションを10年分行うには20週間を要し相当な時間がかかることを理解すべき、効率的な方法で可能であれば10年間の最後3年間はランダムな要素を、あるいは10年間に1度のような洪水を想定していただきたい。
④ 上流からの滞筋を右岸側の堤防に流芯を持っていくような切り方、超えたら左岸側に寄せるように流水を分散していく仕組みを作ればコントロールされると思う。
⑤ 現状の橋の部分を動かすかどうかとも関係してくる。橋を動かさない前提で右岸側に溝筋が固定できなくなると橋の扱いが大変になる。

3 ルシャ川河床路について

- ① 河床路の箇所が橋に近い、ここは滞筋が立っており、そこに作ると問題が生じる。上流側の面的に広がっている箇所に作る方が効果がある。
② 河床路と陸上に擦りつける箇所がすり鉢状になり、洪水時には下流側に負担がかかることで橋側に浸食が進行する可能性がある。その影響を受ける可能性が高いので検討が必要である。
③ 土地問題等もあるが、関係機関連携をとって壊れない箇所に作っていただきたい。

4 世界遺産委員会決議に係る保全状況報告について

- ① ロードマップには事業者への説明時期についても入れておいた方が良い。

5 第二次検討ダムの対応(モセカルベツ川)

- ① 石積による改良(案)はAP会議としては了承。

6 第二次検討ダムの対応(オッカバケ川)

- ① 下流側にある天然の石組はスリット後でも機能しているかモニタリングが必要。
② 新たな工作物を作らないとの改良方針は良い提案であり、AP会議としては了承。
③ 人力施工は今までにはないが、都度AP会議で報告を頂き、問題があれば皆で知恵を絞っていきたい、事故には気をつけて工事を行って頂きたい。

7 H28年度オショロコマ長期モニタリング調査結果について

- ① 河川水温を決定するプロセスは複雑であり、海外の研究結果によると40年以上かけて解析している。知床の河川水温については、調査期間が短い。
② 知床全体としてダム密度の高い河川の管理をどのようにするか考えていくべき。